

保存版 京都市 地震 ハザードマップ 伏見区版 花折断層地震が起こると...

このマップは、伏見区に最も大きな被害をもたらすと想定されている「花折断層地震」の震度分布を示し、その被害と避難についてまとめたものです。
花折断層地震が起こると、伏見区ではほとんどの地域で震度6強が予想され、家屋倒壊、火災発生、人的被害、ライフラインの機能停止など、大きな被害が想定されています。
いざというときのために、自宅、学校、仕事場など普段の生活の場とその付近の震度、地域の集合場所、広域避難場所、避難所の位置と道順などを確認しておきましょう。

花折断層地震で想定される被害 (京都市第4次地震被害想定)

	伏見区	京都市全域
建物被害		
全壊棟数	18,000棟	121,000棟
半壊棟数	20,000棟	111,000棟
人的被害		
死者	700人	4,100人
負傷者	9,900人	53,000人
避難者		
全避難者	47,000人	206,000人
避難所内	38,000人	165,000人
避難所外	9,500人	41,000人

<京都市全域のライフライン被害>

電力	：停電率 約 7.2%	(復旧まで約2週間)
上水道	：断水率 約 62.9%	(復旧まで約1ヵ月)
下水道	：機能支障率 約 7.5%	(復旧まで約1ヵ月)
通信 (固定電話)	：不通率 約 13.8%	(復旧まで約2週間)
通信 (携帯電話)	：停送基地局率 約 20.0%	(復旧まで約2週間)
都市ガス	：供給停止率 約 89.7%	(復旧まで約1.5ヵ月)

凡例

- 広域避難場所
- 指定避難所
- 警察
- 消防
- 官公庁
- 国宝・世界遺産
- JR
- 私鉄
- 地下鉄
- 河川・池
- 緊急輸送路
- 土砂災害警戒地域
- 土砂災害特別警戒地域

防災メモ

地震のときに避難する場所を家族みんなで確認しておきましょう。

地域の集合場所

指定避難所

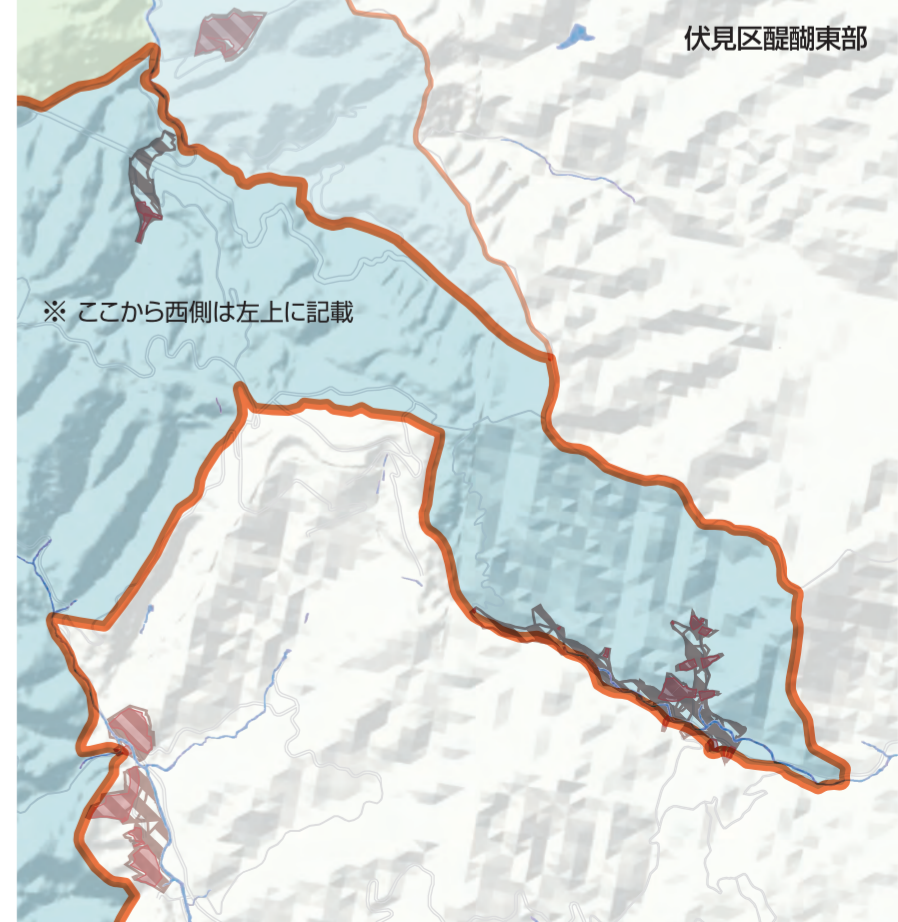
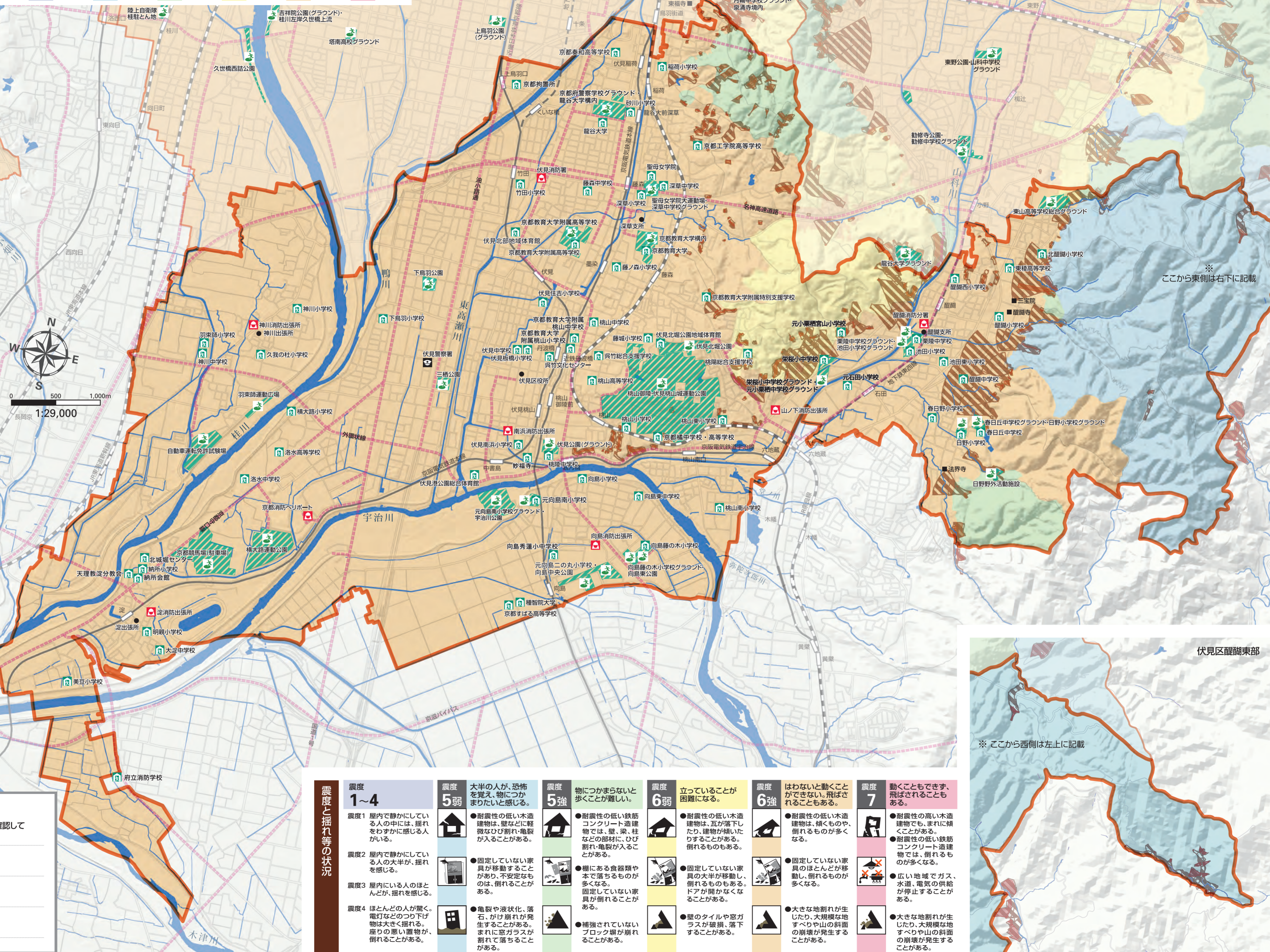
広域避難場所

※上記避難先の説明については裏面に記載しています。

伏見区に最も大きな被害をもたらすと想定される「花折断層地震」の震度分布を示しています。

凡例

震度1~4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
-------	------	------	------	------	-----



震度と揺れ等の状況

震度 1~4 震度1 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。 震度2 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。 震度3 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 震度4 ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	震度 5弱 ●耐震性の低い木造建物は、壁などに軽微なひび割れ・亀裂が入ることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なもの、倒れることがある。 ●亀裂や液状化、落石、がけ崩れが発生することがある。まわりに窓ガラスが割れて落ちることがある。	震度 5強 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、壁、梁、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●捕獲されていないブロック塀が倒れることがある。	震度 6弱 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものが増える。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	震度 6強 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の崩壊が発生することがある。	震度 7 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、倒れるものが増える。 ●広い地域でガス、水道、電気の供給が停止することがある。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山の斜面の崩壊が発生することがある。
---	--	--	---	---	---